

中野区教育委員会会議録

令和6年第5回臨時会

令和6年7月16日

中野区教育委員会

令和6年第5回中野区教育委員会臨時会

○日時

令和6年7月16日(火)

開会 午後 7時03分

閉会 午後 8時25分

○場所

中野区役所7階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 田代 雅規

教育委員会委員 平本 紋子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

教育委員会委員 岡本 淳之

教育委員会委員 村杉 寛子

○出席職員

教育委員会事務局次長 石崎 公一

指導室長 井元 章二

○書記

教育委員会係長 藤井 玉枝

教育委員会係 伊藤 芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長 田代 雅規

教育委員会委員 平本 紋子

○傍聴者数

0人

○議事日程

1 協議事項

(1) 令和7年度使用教科用図書の採択について（指導室）

○議事経過

午後 7 時 03 分開会

田代教育長

それでは、定足数に達しましたので、教育委員会第 5 回臨時会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、平本委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりです。

ここでお諮りをいたします。本日の協議事項「令和 7 年度使用教科用図書の採択について」は、採択過程における審議の公正を確保するため、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第 10 条第 1 項の規定により、非公開の取扱いとなっておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項のただし書の規定に基づき、会議を非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

異議がございませんので、非公開とすることに決定しました。

（以下、非公開）

（令和 6 年第 22 回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開）

<協議事項>

田代教育長

それでは、日程に入ります。

協議事項「令和 7 年度使用教科用図書の採択について」の協議を行います。

初めに、本件協議に当たりまして、事務局から、教科書採択に係るこれまでの経過について、報告をお願いします。

指導室長

それでは、お手元の資料「令和 7 年度使用中野区立中学校教科用図書の採択について」、ご説明をいたします。

まず、「1 制度の概要」でございますが、そこに書きましたように、文部科学大臣の検定を経たもの、または文部科学省が著作の名義を有するものの中から、種目ごとに 1 種類の教科書を採択するものでございます。今回は 10 教科、16 種目、発行者は 22、計 142 冊が採択の対象となっております。

次に、教育委員会における採択に関する一連の流れについて、確認の意味も含めご報告

をいたします。

「2 選定調査の経緯」にお示ししているとおり、「(1)選定調査委員会」において計4回にわたって教科書の調査研究を実施いたしました。詳細につきましては、この後、選定調査委員会委員長よりご報告をいただく予定でございます。また、「(2)調査研究会」を5月20日から6月17日の間に実施いたしました。詳細につきましては、この後ご報告をさせていただきます。

また、「(3)学校意見」の聴取ということで、5月20日から6月17日まで全9校で教科書を巡回させまして、調査研究を実施しました。そのほか、「(4)生徒意見」ということで、資料にございます3校を選定いたしまして、それぞれ異なる学年の学級で実施いたしました。それから、「(5)保護者・区民の意見」の聴取ということで、教科書展示会場に意見箱を設置いたしまして、保護者・区民意見を聴取いたしました。この意見の内容につきましては、後ほどご報告をさせていただきます。

以上、これまでの教科用図書採択に係る経過について、ご報告させていただきました。

田代教育長

続きまして、中野区立中学校教科用図書選定調査委員会の報告を行っていただくため、同委員会委員長、川越孝洋さんに、会議への出席を求めたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田代教育長

ご異議がございませんので、中野区立中学校教科用図書選定調査委員会委員長、川越孝洋さんに、会議にご出席いただくことといたします。

(選定調査委員会委員長 入室)

田代教育長

それでは、川越委員長、どうぞご着席ください。

選定調査委員会の報告をお願いいたします。

川越委員長

それでは、選定調査委員会委員長を拝命いたしました川越と申します。よろしくお願いいたします。

ただいまから、選定調査委員会の報告をさせていただきますが、正確を期すために、報告書を読み上げてのご報告という形をとらせていただきますので、お許しいただきたいと存

じます。

それでは、始めます。

初めに、教科用図書選定調査委員会でございますが、本年5月17日に設置され、第1回の会合は5月20日に開会し、その後、6月19日、6月25日、7月1日の都合4回の委員会を開催し、ここでは全て教科用図書についての調査をいたしました。なお、調査をするに当たり、中野区における教科書採択の基準に沿って調査を進めてまいりましたことを申し添えさせていただきます。

それでは、これから、選定調査委員会の活動についてご報告をさせていただきます。

5月20日に第1回の委員会が開催され、そこで今後の方針等が示された後、選定調査委員会は、採択に関する規則、要綱、採択基準と、中野区教育委員会の教育目標、指導目標、中学校の学習指導要領などの資料をいただきました。この第1回から約1カ月間、教科書展示会場等で、教科用図書を読み込み、6月19日からの第2回の委員会以降、それぞれ3時間程度の中で、国語から道徳までの各種目の教科書について、おのおの忌憚なく、それぞれの立場から意見交換を行ってまいりました。また、選定調査委員会で動議を提出し、可決された意見を教育委員会への報告に付記すべきというご意見もあり、協議がより活発に行われました。

それでは、具体的な内容について申し上げます。

選定調査委員会全体を通して、子どもたちが興味を持って学習を進めていくための工夫を凝らしていたり、デジタル教材を充実させ、知識や技能の定着が図られていることが意見として挙がりました。代表的なものを申し上げますと、社会の地理的分野では、2次元コードにワークシート等があり、授業の振り返りができるようになっておりました。音楽一般や器楽合奏では、2次元コードで範唱や楽器の音を聞けるようになっております。また、美術は、表紙が鮮やかであったり、和紙の手触りを教科書内で体験させるもの、表紙そのものの質感に工夫を凝らしている発行者もございました。

次に、各教科の意見を述べさせていただきます。時間の都合上、科目を絞って報告を申し上げます。

まず、社会科ですが、教科書数が一番多く、内容が多岐にわたっていることから、様々な意見が出ました。地理では、SDGsを取り上げている発行者が多く、2次元コードで学習しやすくしておりました。

歴史では、日本の歴史やその時代の出来事と一緒に、その時代にほかの国はどうだった

のかという年表と一緒にまとめられており、年表が提示されていることはわかりやすいという意見がございました。

公民では、資料が充実しており、自分が学んでいることを深めたり、学んだことがどう今の社会につながるかを学ぶ内容が多い種目でございました。

地図も資料が充実しており、鳥瞰図や資料、文字サイズが大きく見やすいという意見や教科書の配色で、淡いものもあればコントラストがあるという意見もあり、まさしく発行者の色が出ている種目でございました。

数学は、日常や仕事でのつながり等を掲載したり、自分の未来と数学のつながりについて考えることができるような工夫がされているという意見がございました。

最後に、道徳でございます。学んだことを、グループ活動等を通して、自分の考えで述べる授業ができるという意見がございました。また、道徳の授業を進めやすくする副教材のようなもの（道徳ノートやウェルビーイングカード）があるという意見の一方で、授業の方向性がある程度決められるのではないかという懸念が意見として出ました。

以上で、選定調査委員会における報告とさせていただきます。

その他の教科につきましては、大変恐縮ではございますが、お手元でございます「教科用図書選定委員会報告書」に記載をさせていただいておりますので、後ほどごらんいただければと存じます。

本日の報告及び資料が、これからの教育委員会における教科用図書採択の協議を進めるに当たり、役立つことを願っております。

以上で、私からの報告とさせていただきます。ありがとうございました。

田代教育長

川越委員長、ありがとうございました。

ただいまの報告につきまして、質疑がありましたら、お願いいたします。よろしいですか。

それでは、質疑がないようでしたら、以上で報告を終了いたします。

川越委員長、本日は、ご出席ありがとうございました。どうぞ、ご退室ください。

（選定調査委員会委員長 退室）

田代教育長

続きまして、事務局から「中野区立中学校教科用図書選定調査委員会調査研究会」の研究結果の報告と、「中野区立学校教科用図書の採択に関する要綱」第2条に基づく学校、生

徒、保護者及び区民からの意見についての報告をお願いします。

指導室長

意見についての報告の前に、今回の教育委員会協議でございますが、教科用図書採択の公正を期すために、発行者名は伏せて協議を行わせていただきます。その際は、種目ごとにA者、B者のように発行者を呼称させていただきます。つきましては、皆様のお手元にあります資料につきましても、発行者名を伏せ、A者、B者のように記載してございます。

それでは、資料の確認でございます。本日の資料は皆様のご机上のフラットファイルに
とじてございます。この中に調査研究会の報告書、これは概要版と詳細版がございます。概要版が最初にとじている横判になっているもので、詳細版として縦判のものを1者ずつとじております。その後、学校の意見を集約したもの、生徒の意見を集約したもの、それから保護者・区民からの意見を集約したものということで、それぞれタグがついてございますので、そちらをごらんいただければと思います。

それではまず、調査研究会の報告をいたします。調査研究会は、選定調査委員会の下部組織に当たるものでございます。4月19日にご決定いただきました調査研究項目に基づきまして、詳細な研究をしてございます。この研究会でございますけれども、委員は校長を委員長とした中学校教育研究会等で研究している教員が委員となっております。

まず、ご説明でございますが、最初の横判のところに、総合所見として一覧になったものがございます。縦判のもので1者ごとに詳細なご報告をしてございますので、それぞれごらんいただきたいと思います。

続きまして、学校意見の報告でございます。経過報告でもお伝えをいたしましたが、学校には教科書巡回の機会、それから巡回教科書展示会や教育センターでの展示会を活用していただきまして、全ての教科書について調査研究項目に基づく研究を実施し、報告書を作成、提出をいただいたものを集約したものでございます。

その次が、生徒の意見でございます。生徒意見につきましては、1年生から3年生までの意見を学年ごとに集約しております。子どもの視点で、子どもたちはこういうところを教科書に期待しているということがお読み取りいただけるかと思います。

最後に、区民・保護者の意見です。法定、それから特別展示会における区民・保護者の意見及び巡回教科書展示会の意見をそれぞれ集約しております。巡回教科書展示会についてでございますが、鷺宮区民活動センター、南部すこやか福祉センター、教育センター分室に置かれていた教科書を見て、「教科書をお読みになってのご意見・ご感想」「中野区の子ど

もたちにとって、どのような教科書がよいか」「その他」ということで意見が出されております。意見の総数は 61 件、教育センターにおける法定展示会にて 21 件、巡回展示会にて 40 件ございました。これはいただいた意見を誤字脱字のみを修正した形で、そのまま列挙してございます。詳細につきましては、お読み取りいただければと思います。

調査研究委員会、学校、生徒、保護者・区民の意見の報告は以上でございます。

田代教育長

ただいまの報告につきまして、質疑がありましたら、お願いします。よろしいですか。

質疑がないようでしたら、以上で報告を終了いたします。

続きまして、教育委員会、教育委員宛ての要望書などがございましたら、ご報告お願いします。

指導室長

本日までに 2 件の要望書が届いてございます。資料の要望書のタグの部分をごらんいただきたいと思います。

3 月 12 日付で、日本出版労働組合連合会より、7 月 11 日付でジェンダー医療研究会より、それぞれ要望書をいただいております。内容等はまたごらんいただきたいと思います。

以上でございます。

田代教育長

それでは、ここで、本件協議の進め方について、お諮りいたします。

本件協議に当たっては、原則として、選定調査委員会の調査報告を踏まえ、教科種目の教科書ごとに、協議を行いたいと思います。

その際、まず、各委員から順にご意見を伺います。ご意見を伺う順番は、教育長の私から順に指名をさせていただきます。

その後、協議を行い、採択候補とする教科書を決定いたします。

その後、令和 7 年度使用小学校教科用図書について協議し、最後に、特別支援学級で使用する教科書について協議し、採択候補とする教科書を決定したいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

ご異議がございませんので、そのように協議を進めることに決定しました。

それでは、教科種目ごとの協議に入ります。各委員から順にご意見を伺います。よろしい

でしょうか。

それでは、最初に国語についての協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。まず最初に、平本委員、お願いいたします。

平本委員

私のほうは、国語については、言語活動を通して、文章を正確に理解し、思考を深めて表現する力を身につける内容になっているか。また、現在の情報化社会において、主体的・対話的な学びを通じて、思考を深め、判断する力を養うことができるかという観点を重視いたしました。

どの教科書も主体的・対話的な学びを進める上での工夫がなされておりまして、また情報化社会に関する適切な言及もなされていたので、甲乙つけがたいという印象を受けましたが、私は特にC者とD者に注目いたしました。

C者については、冒頭で必ず詩を掲載し、言葉とは何か、言葉の楽しみなど、言葉についての問いかけを生徒に与える工夫がなされていると感じました。また言葉や文章と重要な社会問題とを関連づけて、主体的・対話的な学びを進めやすい教科書であると感じました。

特にC者は、4者の中でも最もSDGsとのつながりが充実しているという印象を受けました。2年生の教科書などでは、持続可能な未来をつくるために不平等のない社会を考えるという総合学習の単元がございまして、「心のバリアフリー」の題材を取り上げ、「あなたの周りにはどんなバリアがあるか」を考えさせる問いかけのほか、障害という言葉への違和感に関する新聞投書を挙げて、言葉について思考を深めさせるという点もすぐれていると感じました。

また、「100年後の皆さんへ」という緒方貞子さんの文章を取り上げて、「なぜ人は人を助けるのでしょうか」という問いかけで終わっているような題材も印象深く思いました。議論を進めるヒントや視点、さらには答えも一切書かれていないようなものもありますが、主体的に思考させる上で、よい仕掛けがなされている教科書だと感じました。また3年生では、AIは哲学できるかなど、実生活を結びつけた形で、生徒の興味を引くトピックの工夫がなされていると思いました。

次にD者につきましては、表紙を開きますと、同じように詩で始まり、他の発行者でも似たようなつくりは見られたのですけれども、言葉を味わうという主題が明確に意図され、示されている点で際立っているように感じました。また、とじ込み資料の「思考の地図」で

は、「思考の旅に出かけよう」から始まりまして、思考を広げる手法としてのマッピング、対話、ブレインストーミングなどが紹介され、次に思考を整理する、最後に思考を深めるという流れで大変わかりやすく、主体的な学びを進めやすい教科書であると思いました。またしっかりと文章を読ませるために、読み応えのある文章が多く、思考を深めて、書くことにつなげていく流れも自然でありまして、論理的に考える力を身につけることが強く意識されている点ですぐれていると思いました。

さらに単元ごとに「学びの扉」という形で、見通しを持ち、捉えて、読み深め、考えを持ち、振り返るという学習の流れがわかりやすく示されていると思いました。この点については、「学びの扉」だけが横書きに変わっているため、読みにくさを感じたり、戸惑う生徒もいらっしゃるかもしれないと思いますが、現在国語もタブレット端末を活用して、横書きで学習する場面は増えていると思いますので、大きな懸念点にはならないようにも思いました。

さらに「情報SDGs」という特集もありまして、メディアの特徴を生かして情報を集めるというインターネットの活用を取り上げる一方で、デジタル市民として生きるという文章を取り上げ、メディアリテラシーについても考えを深めさせる工夫がなされている点もすぐれていると思いました。

ですので、私としては結論として、最も主体的・対話的な学びを進めやすいと感じたD者がよいと感じました。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

次に、伊藤委員、お願いします。

伊藤委員

国語、今回全体的に感じたことは、現代社会の情報化ということを反映していたと思うのですが、社会科とオーバーラップするような、情報を的確に捉えるということにウエートが置かれているものもありました。一方で、やはり文学作品を通して様々な感性を磨くというか、いろいろな人の体験を自分のことと照らして感じたり考えたりすること、そのような人生にとってはとても大事なのではないかと思いますし、やはり国語ということ考えたときに、そういう文学作品を初めとして、読んで、様々な感じ考えるということが大事だと感じました。

A、B、C、DのD者が教材数も多く、少し多過ぎたりすると困るかなと思ったのですが、選定調査委員会のコメントにも多過ぎるとはなっていないくて、様々な話すこと、聞くことを含めて、バランスよく教材が配置されていると思いましたし、また中学生に読ませたいと選定委員会の方も書かれていましたけれども、昔ながらのと言いますか、そういったよい作品というのがきちんと掲載されていて、時代を超えていろいろな読書体験をするという意味で、国語らしい経験を子どもたちにしてもらえないかと思いましたし、また感性に訴えるというか、美しい言葉や詩や、そういったものも多く掲載されていたので、D者がよいのかなと感じました。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

次に、岡本委員、お願いします。

岡本委員

私は国語については、各教科書どんな特徴があって、どんなことを大事にされているのかなというところを拝見いたしました。特にB者、C者、D者について感想を述べたいと思います。

B者については、教材の後に、「学びの道しるべ」というページをつくっていました。こちらで、子どもたちはスムーズに学びを深めることができるのではと感じました。またグループディスカッションとして、話し合いのコツが丁寧に解説してあるなと思いました。対話的な学び、話し合い活動を重視していることがよくわかりました。

1年生で説明文の基本構造といって、カラーでわかりやすく、文章全体の構造が示してあるページがありました。説明文って、子どもによっては苦手意識を持つ子もいるかもしれないのですが、こういう解説は子どもにとってありがたいのではと感じました。

C者については、「学びナビ」、こちらも学習を始める前に、子どもたちが見通しを持てる上で有用ではないかと思いました。また1年生では、中野区でも大切にしている子どもの権利の単元があり、ぜひこれも中野の中学生に、自分事として学んでほしいテーマだなと思いました。小川洋子さんや三崎亜紀さん、森達也さんなど、今まさに活躍していらっしゃる方々の文章も取り扱われていて、子どもたちが国語の教科書と実社会のつながりを感じられるのではと思いました。

最後にD者ですが、私とても感銘を受けたのですが、1年生の最初に、「言葉に出会うた

めに」というコーナーがありました。国語を学ぶのは、あなた自身をつくり上げるため、私も本を読むのは、まさに言葉を知って自分をつくっていくため、世界を知るためだと思っていますので、我が意を得た思いをいたしました。手に入れた言葉の数だけ、世界がはっきり見えてくる。身につけた言葉の数だけ、自分が大きくなっていくとありました。ぜひ中野の中学生に知ってほしい話だと思いました。

教材の後の「学びの扉」というところでは、どう学んでいくかということが示されて、こちらも大変わかりやすいのではと思いました。さっき平本委員もおっしゃっていました、横書きであることについて賛否あるかもしれませんが、現状仕事って、多くの文章は今横書きでやっていますよね。横書きの説明文に慣れるという意味でも、肯定的に受け止めました。

これはちょっと余談になるかもですが、1年生で不便益の話が載ってまして、便利過ぎることのデメリットをあえて問うという話で、私も共感したのですけれども、教科書を便利にしすぎていくと、不便益の観点から学びはどうなっていくのかなと考えました。

結論ですが、各者大変すばらしい教科書で、非常に悩んだのですけれども、中野の中学生が自分自身をつくり上げるため、また世界をはっきりと見ていくため、自分を大きくしていくための教科書として、私はD者の教科書がよいと思います。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

それでは、次に、村杉委員、お願いいたします。

村杉委員

言語活動を通した資質、能力の育成と学ぶ目的と考えの形成について、より生徒たちがわかりやすく学べるという点で選ばせていただきました。どの教科書もわかりやすく、学びやすい工夫がされていましたが、私はB者とD者について述べさせていただきたいと思います。

B者は、学習の流れがわかりやすく記載されていると思います。また、「学びの道しるべ」という目的の確認と振り返りができるようになっている点で、読み方や学びの深め方も系統的に示されているという学校からの意見もありました。学びを広げていけるのではないかと思います。また、全領域で動画や資料が充実しているということも大切な点であると思いました。

またD者は、文字も見やすく、写真も豊富で、色使いも適当で、全体に大変見やすいと思いました。目次が見やすく、「学習の見通しをもとう」では、学習の目的がわかりやすく提示されていました。話し合うことの学びが充実している。また聞くことへのクローズアップがあるという、学校からの意見も重要な点だと思います。また「学びの扉」は、主体的な学びのために、学習の流れが明確になっている点ですぐれていると思います。また思考の視覚化では、何の力をつけているのか丁寧に書かれていて、仮説やグラフなど、論理的な説明をされていて、学びやすいのではないかと思います。生徒からの意見でも、目次のわかりやすいものという点がありましたが、B者、D者はわかりやすかったと思います。

以上より、私はD者の方向性でよろしいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

それでは、最後に、私の意見を申し上げます。

私は、まず1点目は、学習指導要領にある主体的・対話的で深い学び、問題解決型の授業展開を教員がしやすいかという観点で見ました。

それから2点目は、二次元コードを活用したICT、タブレット端末がどのように授業の中で活用できるかという点を見ました。

3点目、各者がイラストであったりページの色であったり工夫しているところ、どんな特徴があるのかという3点で見ました。

多くの教科書が、ICTについては、様々な活用方法を取り入れていました。漢字の勉強ができるとか、あるいは作者のインタビューを取り入れて、子どもたちに興味をもたせるとか、様々な取組がありました。その中で、私はA者とD者、二者がとても工夫されていていいと思いました。

特にA者は、話し合わせる活動も多く、それから手引きというページで、生徒たちが予習をするときに、「このように考えていけばいいのだ。」という流れが示してあって、勉強しやすいと感じました。それから、途中の展開のところでページの色を変えていて、学習内容がとてもわかりやすく表現されているところがありました。

D者も同じように、物語の後に「学びの扉」というページがあって、委員の皆さんから意見が出ている横書きなのですが、こういう形で考えていこうという流れが示されていて、とてもよかったと思いました。

最後まで、A者とD者と迷ったのですけれども、私はいろんな途中の学習もしやすいと思って、A者を一番に選びました。

ほかに、各委員からご発言はございませんか。よろしいですか。

それでは、意見を集約することといたします。

今回は、全体的にD者という意見が強いようですが、よろしいでしょうか。私だけA者なののですけれども、最後までD者とA者で迷ったのですが、ご意見ございますか。

休憩します。

(休憩 午後7時36分)

(再開 午後7時36分)

田代教育長

では、再開します。

私はA者とD者を最後まで迷ったのですけれども、最後A者にしました。その最大の理由は、D者の「学習の扉」です。そこだけが国語の教科書で横書きになっているところが、ちょっと違和感があったので、最後A者にしたのですけれども、先ほどの皆さんのご意見で、タブレット端末も横書きにしているし、横書きで、子どもたちがそこで困ることはないのではないかと、かえってそこが意識づけられていいのではないかという意見もありましたので、そう言われれば、内容的には両者ともすばらしい教科書だなと思っておりましたので、私もD者を推薦したいと思いますので、国語については、D者のご意見が多いということではよろしいでしょうか。

それでは、ただいまの協議の結果、国語については、D者を採択候補とすることでご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田代教育長

ご異議がございませんので、国語については、D者を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、次に、美術についての協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず、岡本委員、お願いいたします。

岡本委員

美術について3者教科書を出していただいていますので、私は3者がどんな特徴を出さ

れているのかなということを拝見いたしました。どの者もすごくすてきな教科書をつくっていただいて、大変悩みました。

A者は表紙の手触りがとても印象的だなと思いました。鑑賞というと、見るものという印象もありますが、やっぱり美術としては、自分の手を使って制作をしていく。感じていくということもプロセスとしては大切だと思いますので、とても印象的でした。

生徒作品と作者の言葉というものが載っていました。同じ中学生の作品と、その作品に対して制作した中学生がどんなことを考えたかということが載っているのは、同じ中学生の立場として、とても意欲をかき立てるものがあるのではと思いました。また、中学生が興味を持ちそうな、周りに、身近にあるピクトグラムやイラストなど、身近にあるデザインに興味を持って、自分でもやってみようと思えるような構成になっているのかなと思いました。

続いてB者なのですが、こちらも1年生の最初のほうに、やはり中学生が撮影した写真というのが載っていました。同世代が持っている視点の面白さですね。写真なんて、誰が撮っても一緒だろうと思うかもしれませんが、意図によってこんなに面白いものができるんだ。そういう視点の斬新さ、面白さというものが中学生に伝わるのは、すごくすてきなことかなと思いました。

C者も、こちらも生徒作品がいろいろ載っていました。大変充実していて、しかもそのレベルは結構高いのかなという印象もありました。教科書のレイアウトは一番すっきりして見やすいかなと思いました。

総じて、どの教科書も大変すばらしいと思ったのですが、私はより中野の中学生が自分で何かやってみたいと一歩踏み出せるようなつくりになっていると感じたA者がよいのではと思いました。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

次に、村杉委員、お願いします。

村杉委員

それぞれの作品が生徒たちの心に印象強く、長く残るものであってほしいと思いながら、選ばせていただきました。各者とも見やすく、甲乙をつけがたいと思いますが、私はB者、C者について述べさせていただきます。

B 者は見開きページで、大変わかりやすい構成になっていて、また「教科書を活用しよう」というページの説明から、生徒が主体的に教科書を活用できるようになっている点はすぐれていると思いました。

C 者は図版が多く、写真が大きく、美しく、大変鮮やかでした。「鑑賞の入り口」で、各自の考察を深める工夫がなされているという学校側からの意見もあり、また 2 次元コードでは、「学びのはじめに」から動画などの導入コンテンツにリンクされており、生徒たちが学びやすいのではないかと思います。教科書の使い方もわかりやすく書かれていました。

このような点から、私は C 者の方向性でよろしいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

続きまして、平本委員、お願いします。

平本委員

私は表現・鑑賞などの幅広い活動を通じて、主体的・対話的な学びを深める工夫がされているかという点と、3 年間の発達段階を考慮しているか。またデジタルコンテンツ含めて、生徒の関心を引く題材が充実しているかという部分を重視して見させていただきました。

まず A 者については、ほかの委員からもご指摘があったとおり、表紙が立体的な手触りで、とても印象的でした。また写真が大きくダイナミックで、余白も多いということで、シンプルではあるものの、視覚的に見やすい教科書だなと感じました。現代的なアニメーションを題材に含めるなど、生徒の興味・関心を引く工夫が感じられ、デジタルコンテンツも冒頭にあり、使い勝手がよいという印象を受けました。

また B 者については、2 冊とも冒頭、谷川俊太郎さんの詩から始まりまして、文学的な表現と美術、芸術とのつながりを感じさせるような工夫がすぐれていると感じました。また目標やポイントがその都度わかりやすく示されておりまして、生徒が主体的に学びを進めやすい教科書になっているとともに、デジタルコンテンツについても、技法の動画や生徒の作品、また解説する動画なども充実していると感じました。

最後に C 者についてですが、C 者は写真も鮮やかで非常に美しく、各学年の発達段階を考慮してテーマを定めて、3 分冊にしているという点が特徴であり、私はこの点はすぐれていると感じました。「美術との出会い」から始まり、2 年生で「学びの実感と深まり」、3 年生で「学びの探究と未来」ということで、流れもわかりやすいものと感じました。また

一番最後の章では、「デザインで地域を豊かに」、また「住み続けられる町づくり」、「多様性と共同制作」など、デザインや美術を生活や社会とどのようにつなげて生かしていくか。また実践的、発展的な学びの視点を与えるような構成になっていると思ひまして、生徒の主体的な発想を大事にしておひ、主体的で対話的学びを進めやすい教科書であるという印象を受けました。

また特徴的だったのが、ページの左下に、道徳との関連について、ほかの教科書でも指摘はあつたりするのですが、C者については具体的な一文を掲載しておひまして、例えば地域社会の一員として郷土の発展に努めるであつたり、デザインを使う人の立場を考え、思いやりの心を持つ。あるいは公共の精神を持って、よりよい社会の実現に努めるなど、美術と道徳とのつながりを随所で具体的に意識させている点が特徴的でありまして、工夫が凝らされているなと感じました。

さらに、撮影した写真をつなぎ合わせて、ストップモーションを生かして学校を紹介してみようなど、ICT端末を使って映像作品をつくる活動を設定している点でも、生徒の興味・関心を引く工夫がなされていると思ひましたし、デジタルコンテンツも巻末の資料で、「みんなの作品ギャラリー」という豊富なコンテンツがあり、参考になるなと思ひましたので、総合的に見て、C者がよいのではないかなと思ひました。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

それでは、次に、伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

私は3者ともとても魅力的で迷ったのですが、特にA者とC者で迷いました。

A者は、皆さんおっしゃっているように迫力があつて、触感にもこだわりがあつて、新しい感じがいいなと思ひました。ただ、よく見ていくと、C者はすごく写真が伸びやかな感じがして、選定調査委員会の方は「鮮やか」と書かれているのですが、私の言葉だと伸びやかで楽しそうな感じがするように思ひました。

子どもたち、美術が好きな人、好きではない人、得意な人、得意ではない人、いろいろいらっしゃると思うのですが、その中でも何か感性に働きかけて、楽しい感じがしてくるといふ教科書、何か作品にひきつけられたり、自分も何かやってみたくなるような、そう考えると、C者がよいのではないかなと思ひました。

特に、先ほど道徳との関連で触れられてもいましたがデザインとか、あと芸術作品とか、美術作品の中にも、いろいろなことがある中で、デザインのように特定の目的を持って制作されるものもあれば、また本当に芸術という形で制作されているものもあるという形で、様々な作品とその背後にある意味合いということまで学ぶことができるのではないかなと。そのようなことを自然に学ぶことができるのではないかなと思ひまして、C者がいいかなと感じました。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

それでは、最後に、私の意見を申し上げます。

美術の教科書なので、3者とも生徒の作品や有名な作家の作品とか、すばらしい作品がきれいな写真で載っていて、遜色ないと感じました。今回は実技教科であるので、ICTをどのように教科書の中に取り入れていて、学習に効果的に使えるかということで、美術については、ICTの活用も重点的に見させてもらいました。

例えばICTで言うと、A者はスケッチブックの扱い方とか、鉛筆の使い方とか、細かなところもICTで示していて、とても面白いと思いました。B者については、生徒作品が、教科書のページに載せられない作品がたくさん出ていて、生徒たちにとっては、とても参考になると感じました。C者については、作り方の動画はとても参考になりますし、立体的な作品が、ICTを使って360度上から見られてとても工夫されていました。雷神・風神の作品の説明もとても丁寧にされていて、興味ある生徒は見るだけでも、美術が好きになるのではないかと思います。

そのほか各者の特徴としては、A者は著作権の扱いについても触れていたり、美術の教科書で「話し合しましょう」という問いかけがあったり、SDGsも取り上げていたり特徴的でいいと思いました。B者は、道具の使い方を別冊で丁寧に扱っているのが、とてもいいと思いました。C者も同じように、道具の使い方や粘土の作り方などは丁寧に説明されていて、生徒たちは教科書を見て、作業工程がよくわかると感じました。

どの者もよかったのですが、総合的に判断して、私はA者が一番いいと感じました。

ほかに各委員からご発言はございませんか。

それでは、一旦休憩いたします。

(休憩 午後 7 時 50 分)

(再開 午後 7 時 53 分)

田代教育長

会議を再開します。よろしいでしょうか。

それでは、A 者と C 者、両方ともいいという意見もあるので、本日の協議で一つの候補を選定することが難しいと判断して、美術については一つの候補ではなく、複数候補を挙げることにし、次回以降の委員会にて再度協議により決定したいと思いますがいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、候補として、A 者と C 者を採択候補とすることにご異議ございませんか。よろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田代教育長

それでは、ご異議ございませんので、美術については、A 者と C 者を採択候補とすることにいたしました。

次に、技術・家庭のうちの技術について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず最初に、伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

技術科もいずれも魅力的で、非常に迷いました。特に B 者と C 者で私は迷いました。B 者は、子どもの視点から見たときに、学習に入りやすいような工夫が多くされているような印象を持ちまして、子どもにとって表現の説明とか、あと問いかけの仕方がわかりやすいのかなという。自分の目線で考えることができるのかなというふうに思いました。

そして C 者なのですが、C 者のよさとしては、実際に技術科は、学校など、作品をつくる場合などあると思うのですが、そういった実際に手を動かしてものをつくったりするときの説明がわかりやすいような気がいたしまして、特に現代社会の中で、ものを実際に自分でつくるといことは少ないように思いますので、子どもたちにとって貴重な体験であると同時に、子どもにとっては、以前の子どもたちに比べると、なじみにくい活動でもあると思うのです。それだけに、そこで楽しさや、つくれてうれしいという気持ちを感じてもらえたらと思うのです。そういう視点に立ったときに、C 者がわかりやすく丁寧ではないかなと思いました。

ほかの教科もそうですが、とても複雑な社会の中で、頭で考えていろいろと自分で結論を出さないといけないというようなスタイルの学習が多い中で、手を動かしたり、普段していないことに取り組んだりできるような時間が「技術」なのかなと思いますので、そういう意味で、C者がよろしいかなと感じました。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

続きまして、岡本委員、お願いいたします。

岡本委員

技術・家庭、技術分野、私は身の回りに技術があるのだということに気づけること、そして自分や自分たちでも課題を発見し、工夫していけるのだという意欲を持てる。そんな力を養える教科書はという観点から考えました。3者とも、少しずつ気づいた点を述べます。

まずA者ですが、工夫、想像の力が技術を支える。世の中で、技術がどう生かされているか。子どもたちのなじみの深い例を出していて、中学生は興味を引かれるのではと感じました。他方で、單元ごとに「技術の匠」として、その分野で実際に活躍している専門家のお話が載っていて、これも子どもたちにとってキャリア教育という意味でも、非常に興味を持つ子もいるのではと思いました。二次元コードで実際の工具の使い方などは、動画で見られるのは本当に便利だと思います。また、学習のまとめでは、考えを深めようとして、生活で起きる問題解決を、「あなたならどのように問題解決しますか」という問いが用意されていました。これについて対話的な学びができれば、学習が深まるのではと思いました。総じて、問題解決に大変力を入れている教科書だなと感じました。

B者については、「技術の問題解決って何？」というページで、立場によって見つかる問題が異なること。立場って、人それぞれの立場ということですね。解決策も異なるということについて解説があって、これも正解は一つでない時代、多様な人がいて、多様な見方がある中で、どうしていくかという学びにつながるのではと感じました。「先輩に聞いてみよう」というページもありました。それから、実際に中学生がつくった作品などが紹介されていて、より学びたい子にとっては刺激になるのではと感じました。

最後にC者ですが、教科書の冒頭に、企業ではどのように製品開発を行っているのかなというページがありまして、こちらも教科技術で学べる内容と実社会が結びついているものであることということはよくわかると思いました。情報機器を使った生活や社会との関わ

り方というところでは、私がとても重要だと考えているデジタル・シティズンシップについての解説があって、とても頼もしく感じました。問題解決についての力を入れられていて、問題解決の手順というページの解説では、問題解決の流れ、問題の発見と課題の設定、構想と設計が解説されていて、技術という教科のみならず、実社会で生きていく上でも必要な学びだと感じました。

結論としましては、技術が実社会、生活とつながっているという点がはっきりわかること、問題解決の手順がわかりやすいこと、またこれからの学びに大切なデジタル・シティズンシップ教育についても記されているC者がよいと感じました。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

次に、村杉委員、お願いします。

村杉委員

技能を適切に習得でき、生活との関わりについての理解を深められるという点も踏まえ、見させていただきました。A者、B者、C者ともにわかりやすい説明であったかと思いますが、私はA者とC者について述べさせていただきたいと思います。

A者は「考えてみよう」「やってみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」など、主体的・対話的で深い学びにつながっていました。また、統一された問題解決の流れが示され、見通しを持って取り組む工夫がされているという学校からの意見もあり、学びやすいのではないかと思います。

C者は図と文章のバランスがよく、技術の見方、考え方など、子どもたちにとってイメージが湧きやすい構成となって、バランスよくまとまっていました。また学習の流れもイラストでわかりやすく示されていました。情報セキュリティ、情報モラルについても丁寧に説明されて、適切な情報との関わりを促している点はわかりやすく、学びやすいと思いました。ほとんどのページに二次元コードが掲載されているのも充実している点かと思います。このような点からも、C者がわかりやすいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

次に、平本委員、お願いいたします。

平本委員

私は技術を学ぶ意義を実生活や社会生活と結びつけて理解し、主体的・対話的な学びを実現する工夫がされているか。また今日的な社会課題についての問題発見、解決の視点があるか。そしてデジタルコンテンツが使いやすいものになっているかという観点を重視して見させていただきました。各者ともに、デジタルコンテンツが大変充実しておりまして、わかりやすいものになっていましたので、大変迷ったのですけれども、私としてはB者とC者で迷いました。

B者については、『スキルアシスト』という別冊もついておりまして、道具の使い方など、デジタルコンテンツも大変充実しておりました。手軽に使うことができますし、安全面を大切にしているという印象を受けました。また教科書の最後のほうでは、「夢をかなえる技術」という単元がございまして、学んだ技術を組み合わせて、実現したい願いを形にしていく具体例をダイナミックに掲載している点が子どもたちの興味を引くものであり、すぐれていると感じました。例えばドローンタクシーや野菜の自動収穫ロボット、またAI技術と3Dプリンターを活用した義足など、現代的な社会課題に対する問題発見や解決、そして発展的な学びの視点としても非常によい内容であると感じました。

次に、C者についてですが、冒頭のガイダンスが非常にわかりやすくまとめられておりまして、技術を利用した問題解決の流れを丁寧に説明し、技術の仕組み、方法の最適化とはという問いを立てて、トレードオフが生じる中で、どのようなことが実現できて、どのような視点を優先すべきかを考えながら、子どもたちが課題をより達成できるようにしていくという考え方の流れを、丁寧に説明している点が大変すぐれていると思いました。これは技術の学習全般を通じて、主体的に生活や社会と結びつけて学びを深めることができるという点で、学習も進めやすいと思いました。

また岡本委員も指摘しておりましたが、情報モラル教育にも力を入れているという点がよかったと思います。デジタル・シティズンシップという言葉にも触れておりました。さらにデジタルコンテンツについては、2次元コードの隣に、必ずその単元で使う道具を絵で掲載しておりまして、動画の構成自体も見やすく、わかりやすいため、生徒も調べやすい教科書であると思いました。

ですので、最終的には、実生活と結びつけた探究的な学びを進めやすいと感じたC者がよいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

最後に、私の意見を申し上げます。

I C Tについては、各委員からお話があったように、3 者とも作業の動画などが載っていて、とても工夫されていると思いました。特に、B 者は『スキルアシスト』が別冊になっていて、手軽に使えるよさがあると感じました。A 者、C 者も教科書に二次元コードがついていて、その場面でその作業ができる簡単さは感じました。

各者の特徴としては、A 者は安全指導、S D G s について丁寧に扱っていて、技術の進化のページがとても楽しくて、生徒たちたちも興味をもって技術の革新について考えるのではないかと思います。写真も多く、とてもわかりやすい構成になっていました。それから、中学校で特に扱う製図の説明は、A 者が丁寧に、とてもよいと思いました。評価のページもあって、使いやすい教科書だと思いました。

B 者については、目当てが最初にあって、今日、何を勉強するのかわかるのが特徴だと思います。S D G s についても積極的に取り組んでいて、特に写真が多く、生徒たちにとっては、写真からやることが学べるような雰囲気がB 者の特徴であると思いました。後半には、プログラミング学習や情報セキュリティの学習も丁寧に扱っていて、それもB 者の特徴だと思います。

最後にC 者ですけれども、C 者はワークシートもあって、生徒たちがレポートを書いたり作品についての感想を書いたりするページが取り入れてあって、とても工夫されていると思いました。また、作業の安全について丁寧に説明してあって、チェックリストもついていて、工夫されている教科書だと思いました。作業の手順はとてもわかりやすく、それから作物の収穫期の実習のページは、写真もとてもきれいで、学習のまとまりもよいと思いました。最後の情報モラル教育については、とても力を入れていて、丁寧な解説があって、よいと思いました。

どの者もよかったのですけれども、総合的に判断をして、私は最後のC 者が一番いいのではないかと思います。

ほかに、各委員の方からご発言はございますか。よろしいですか。

それでは、意見を集約することといたします。

今回は、皆さんC 者という意見が強いようですが、技術については、C 者でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、技術については、C者を採択候補とすることでご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田代教育長

ご異議ございませんので、技術については、C者を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、本日最後ですけれども、家庭科について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず最初に、岡本委員、お願いいたします。

岡本委員

技術・家庭の家庭分野、もうまさにですが、子どもたちの生活に密接に関わる教科であること、また現代的な生活に関わる課題について、ぜひ中野の子どもたち、中野の中学生に学んでほしいことが載っている教科書はという観点から拝見いたしました。3者とも少しずつ気づいたことを述べたいと思います。

まずA者は、調理などをする際の安全面の配慮が、非常に細かく丁寧に書かれてあると思いました。家族のことについては、多様な家族の例に、漫画やアニメの家族の例を出していて、こちらも中学生にとってはわかりやすいのではと感じました。私たちの消費生活については、契約や支払い方法、そして消費トラブルとその対策などについての解説があり、本当にネット上でいろんな危機が蔓延する現代ですから、まさに中学生に知ってほしい、生活につながる内容だと思いました。また消費者としての権利と責任についても解説されていました。私も、消費者って、ただ消費するだけではなくて、消費活動を通して社会をつくっていくという観点が非常に大切だと思っていますので、こちらも子どもたちに学んでほしい内容だと思いました。

B者については、冒頭に日本の年中行事と世界の衣食住について取り上げられていて、日本の文化を大切にする視点を持てるとともに、それを相対化する視点も持てる。両方の視点が身につけられるのではと思いました。課題解決学習の流れが明記されていて、単元が始まるたびに意識できれば、これも学びが深まることにつながるのかなと思いました。多様な家族のあり方については、『きのう何食べた?』という漫画が取り上げられているのは、とてもポジティブだなと思いました。あと、こちらも「先輩に聞こう」のコーナーで、

少し年上の方々にインタビューをしています。遠く離れた方ではなくて、少し年上というのが、一つポイントかなと思いました。中学生にとっても、身近に感じられるのではと思いました。こちらの教科書でも、消費生活、環境はとても充実して解説されていて、特に「クレジットカードの仕組みを知ろう」とか、契約の成立と未成年者取消権などは、18歳成人を鑑みても、とても重要な解説だと思いました。

最後にC者ですが、ガイダンスで家庭分野の学び方と身につけたい力が、とてもわかりやすく整理されていると感じました。多様な家族のところでは、『ふたりママの家で』という絵本などが取り上げられ、またヤングケアラーや里親についての記述もあって、最も充実していると感じました。「やってみよう」「考えてみよう」というコラムもありまして、こちらは少しでも自分で体験したり、考えたりすることで、視野がちょっと広がるよい工夫だなと思いました。消費生活についても、身近に起きている消費者被害について、こちらの教科書も大変具体的に解説されていて、子どもたちにぜひ学んでほしいと感じました。

結論ですが、どれも充実した教科書で、私も大変迷ったのですが、多様な家族のあり方を取り上げていること、また子どもたちに現代を生きる上で知ってほしい、考えてほしい内容がより手厚く載っているということで、C者の教科書がよいと思いました。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

続きまして、村杉委員、お願いいたします。

村杉委員

生徒たちが家庭生活を大切にし、よりよい実践に役立つような視点から見させていただきました。各者ともわかりやすく説明されていたので、甲乙つけがたかったのですが、私はB者とC者について述べさせていただきます。

B者は、「話し合ってみよう」「体験してみよう」など、実践的・体験的な内容で学ぶことができ、課題に対して主体的・対話的な活動を促している点は、生徒たちが大変学びやすいのではないかと思います。

C者は、写真が大きく、食材も実物大の大きさに近く、鮮明で、大変見やすいと思いました。またSDGsについても、見開きページで丁寧に説明されている点もよいのではないかと思います。キャラクターが学習案内やヒントを出すことで、主体的に学習に取り組めるようになっている点、またデジタルコンテンツが充実していて、写真やイラストも多

様性を踏まえた内容となっていることなども、学びやすいのではないかと思います。調理方法のQ&Aも下のほうにわかりやすく記述されていました。このような点からも、C者がわかりやすいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

続きまして、平本委員、お願いいたします。

平本委員

私は家庭については、学ぶ意義を実生活や社会生活と結びつけて理解し、進められるかどうか。また今日的な社会課題についての問題発見、解決の視点があるかという観点を重視させていただきました。私も3者とも大変細かく丁寧に書かれておりましたので、迷ったのですけれども、B者とC者に注目いたしました。

B者については、ガイダンスの記載も丁寧でありまして、食生活についても詳しく丁寧に書かれていたと思います。また多様な家族についても、イラストや写真を使う形で子どもたちにとってわかりやすく示されておりました。さらに男女共同参画社会を目指してというコーナーでは、資料を示して、現代的な社会課題に対する問題提起がなされている点が良かったです。具体的に言いますと、日本はアメリカやスウェーデンと比べて、夫婦間の家事時間の違いに大きな差があることなどを資料から読み取らせて、それがなぜなのか考えさせるなど、主体的・探究的な学びにつながる仕組みが工夫されており、すぐれていると思いました。さらに家族の役割を演じるロールプレイングを通じて、家族それぞれの立場や、役割についての理解を深める視点を示しているという点は、ユニークな点だと思います。例えばコミュニケーションの技術を磨こう、高めようなど、家族や地域との関わり合いをよりよくしていこうというメッセージ性を感じる教科書だなと思いました。

次にC者については、自立と共生をテーマにしておりまして、生活の見方や考え方の視点をしっかりと提示している点がすぐれていると思いました。また多様な家族のあり方についても、3者の中で最も多く紙面を割いて丁寧に取り扱っておりまして、ヤングケアラーも取り上げている点は良かったです。また性別の役割分業についてもしっかりと触れており、男は外で働く、女はうちで働くではないということを明記しているのは特徴的でした。さらに申し上げますと、ウェルビーイングについても、言葉の意味を教えるというだけではなくて、例えば未婚女性と未婚男性の数値を示す線グラフから、どのようなことが読み取

れるか。どのようにこれが変化すると思うか。またあなた自身が今後どのようなライフコースを理想、または期待するのかなど、資料や課題を使って問いを立てて、主体的に子どもたちに考えさせるようなことができる仕組みになっている点が、大変すぐれているなと思いました。さらに調理実習についても、手順の写真もわかりやすく、動画も見やすいものでありましたし、巻末には生活とつながる実践例がありまして、学んだことを生活に生かして、次の課題へつなげていくための助けになるように思いました。

以上を踏まえまして、私としては、今日的な社会課題を踏まえて、探求的な学びを進めやすいC者がよろしいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。

次に、伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

先ほど技術でも申し上げたのですが、やはりほかの科目と違って、調理実習や様々な、昔で言う裁縫、布で何かをつくったりとか、そういう作業的なことを子どもたちが楽しくできるということが一つのポイントではないかと思いましたのと、あとは、子どもたちの中で、家庭科が難しくてわからないというお子さんが近年おられまして、なぜかということを考えますと、委員の皆様おっしゃっていたような消費者としての教育ですとか、様々なことが、社会科のような形であるわけですが、かなり難しい概念が扱われていて、意外に難しくなっている部分もあるのかなと思って、気になるところです。そういった観点から考えますと、特にA者とC者、とてもわかりやすく、内容も充実していて、大変迷ったのですが、C者は割とオーソドックスにいろいろなことが盛り込まれているのですが、A者はポイントとなるところが丁寧に書かれている。そういう意味で、社会科とかが苦手な生徒さんでも、「ああ、こういうことなんだ」と、具体的に理解がしやすいように思いましてA者かなと感じたところです。

以上です。

田代教育長

それでは、最後に、私の意見を申し上げます。

実技教科であるということで、ICT、二次元コードについて、丁寧に見させていただきました。どの者も調理実習を細かく説明していたり、包丁の使い方やミシンの使い方など

動画で示していたりして、各者ともとてもいいと思いました。

特にA者は、ニンジンとかの切り方だけではなくて、包丁の持ち方とかまで丁寧に動画で扱っているので、見た生徒にとっては、とても勉強になる工夫だと思いました。

教科書については、A者はとても親しみやすいイラストや漫画を取り入れていて、生徒たちの興味・関心を取り入れるような内容になっていました。それから、これはA者とC者に共通しているのですが、調理実習のときに写真を入れて、両ページにまたがって調理工程を順に説明していました。時間もここまで何分と調理時間も示されていて、生徒たちはそれを見たときに、動画を見なくても、「このような順番に調理していくのだ。」ということが分かりやすくなっていました。

それからA者には、後半に災害対策のページもあり、きめ細かくいろいろな内容が載っていて、生徒たちに指導するにはとてもいいページだと思いました。B者は、最初に安全指導を行っていて、これもB者の特徴で、あらゆる場面の安全面を大事にしているということがよくわかりました。写真が連続してたくさん出てきているページがあって、言葉よりも写真で伝えるという特徴性もあって、生徒たちにとっては、分かりやすい場面もあると思いました。

最後にC者なのですが、先ほどから各委員がおっしゃっていたように、SDGsの内容やヤングケアラー、それから特に幼児のページが充実していて、中野区は保幼小中連携で、保育実習や職場体験で幼児との関わりを大事にしているので、幼児教育のページが充実しているC者の教科書は、とてもいいと思いました。それから子どもの権利条約のページもC者はあって、中野区が取り組んでいる施策にも合っていると思いました。ミシンの使い方や手縫いの仕方の部分も丁寧に教科書に表示されていて、とてもいいと思いました。

私の結論は、最後A者とC者、どちらも甲乙つけがたくいいと思いました。

休憩します。

(休憩 午後8時23分)

(再開 午後8時24分)

田代教育長

それでは、再開いたします。

それでは、私はC者にしたいと思いますので。

それでは、全体的にC者というご意見が強いようですが、各委員ともC者というご意見

でよろしいでしょうか。

それでは、家庭科については、C者でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、家庭については、C者を採択候補とすることでご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田代教育長

ご異議ございませんので、家庭については、C者を採択候補とすることに決定いたしました。ありがとうございました。

それでは、本日の協議はこれまでにしたいと思います。

次回は7月17日に、数学から協議を行います。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第5回臨時会を閉じさせていただきます。

ありがとうございました。

午後8時25分閉会